

コメ海外市場拡大戦略プロジェクト②

- 現在までに121の戦略的輸出事業者、166の戦略的輸出基地が2025年の輸出目標と目標達成に向けた取組方針を設定。（戦略的輸出事業者による目標数量合計：約17.2万トン(原料米換算)）
- 参加事業者に対して、戦略的輸出事業者が産地と連携して取り組むプロモーション等に対する支援、戦略的輸出事業者と産地のマッチングの推進や海外規制動向のタイムリーな情報発信等の施策を通じて輸出を強力に後押し。

戦略的輸出事業者参加状況（2024年7月2日時点）

121事業者（目標数量合計：17.2万トン※）

○ 主な戦略的輸出事業者（輸出目標上位5事業者を抜粋）

戦略的輸出事業者	輸出目標	重点国・地域
JA全農	コメ：50,000トン パックご飯：200万食	中国、北米、EU、アジア等
(株)神明	コメ：10,500トン パックご飯：100万食 米粉・米粉製品：100トン	中国、アジア、EU等
(株)クボタ	コメ：10,000トン	米国等
全農インターナショナル(株)	コメ：10,000トン パックご飯：100万食	中国、北米、EU、アジア等
木徳神糧(株)	コメ：6,000トン	中国、香港、北米、EU、東南アジア（シンガポール・タイ等）、ブラジル、アジア等

※ 原料米換算。輸出事業者の目標の積み上げであり、重複して計上される場合もある。

戦略的輸出基地（産地）参加状況（2024年7月2日時点）

- (1) 団体・法人 157産地
- (2) 都道府県単位の集荷団体等 8団体（JA全農県本部、経済連）
（(1)以外の産地も含めた取組を推進する都道府県単位の団体等）
- (3) 全国単位の集荷団体等 1団体（JA全農）
（(1)、(2)以外の産地も含めた取組を推進する全国単位の団体等）

○ 主な戦略的輸出基地（令和3年産輸出用米生産実績上位5産地を抜粋）

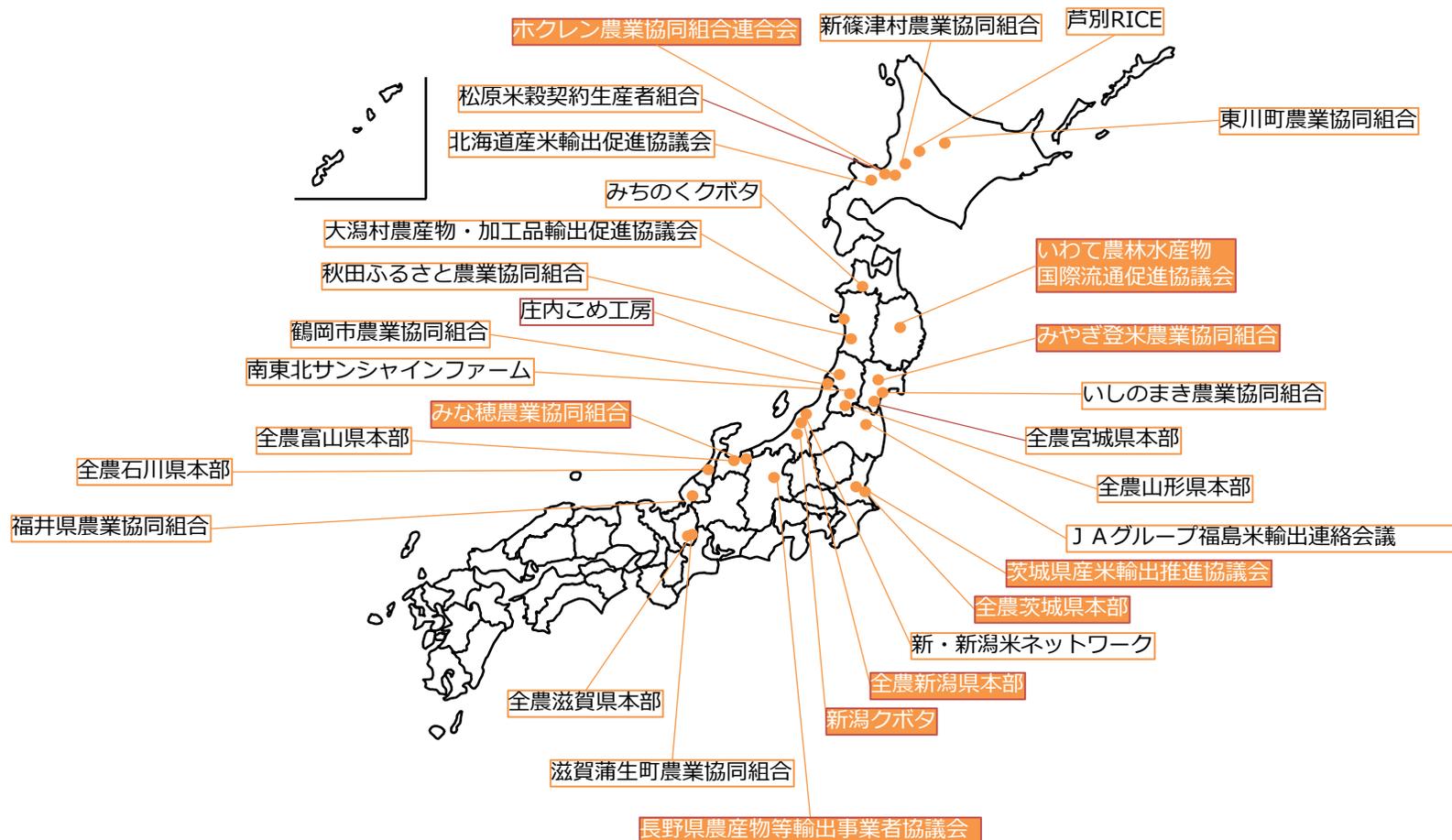
【団体】		【農業法人】	
都道府県	戦略的輸出基地	都道府県	戦略的輸出基地
新潟県	JAグループ新潟米輸出推進協議会	新潟県	(株)新潟クボタ
宮城県	JAみやぎ登米	青森県	(株)みちのくクボタ
岩手県	JA岩手ふるさと	北海道	(株)芦別RICE
茨城県	茨城県産米輸出推進協議会	山形県	(株)庄内こめ工房
福井県	JA福井県	北海道	(株)松原米穀契約生産者組合

主なコメの輸出産地

○ コメの輸出を更に伸ばすためには、コメの輸出量の9割を占める「モデル輸出産地」（「農林水産物・食品の輸出拡大実行戦略」でリスト化した年間1,000トン超のコメ輸出を目標とする産地）を中心に、低コスト生産等の取組を支援し、競合する他国産米との価格競争力を高めていく必要。

モデル産地（30産地）（令和6年1月末現在）

- モデル輸出産地で、令和5年のコメの輸出量約37,000トンの9割をカバー。
- 年間1,000トン超の実績のある産地も存在（オレンジ色の産地）。
- それらの産地では、多収性品種の導入等による低コスト生産と大ロット安定供給できる産地形成が実現されているところ。



注) モデル産地の輸出量の割合は、各産地から聞き取った実績を積み上げたものを基に計算。

主なコメの輸出産地

ホクレン農業協同組合連合会

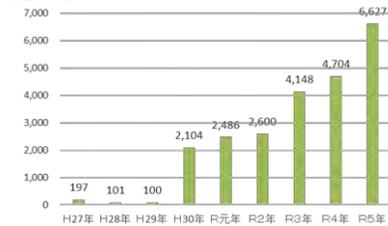
【取組内容】

国内需要への安定供に取組む一方で、将来的な国内需要の減少傾向を見据え、平成27年からコメの輸出を開始。

食味等の品質バランスへの影響も考慮しながら、**直播栽培**の拡大や**多収品種の開発・普及**により生産コストの削減に継続的に取組むことと、北海道米の良食味のアピールと認知度向上の取組により、輸出拡大を推進。



○米の輸出実績



【生産実績】

令和5年の生産量は6,627トンで、台湾、香港、中国、シンガポール、タイ等に輸出。

新篠津村農業協同組合

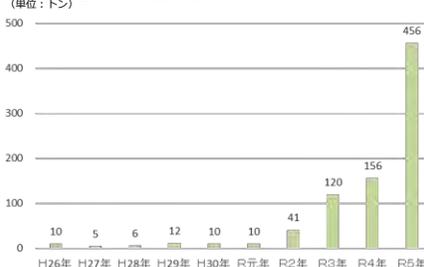
【取組内容】

健康や安全・安心に対する関心が強まり、クリーン農業への期待は一段と高まってきているため、安全・安心で美味しい農産物の供給に向けて、**組合員全員が栽培履歴の記録**を行うとともに、化学肥料や農薬の使用を減らすための取組を推進。土づくりについても、**稲わらの堆肥化**を図るなど、環境との調和に配慮。

生産コストの低減のため、**直播品種の導入**や、**ドローンなどのスマート農業機器の活用**による労働時間の削減や生産の省力化等の取組を推進。



○米の輸出実績



【生産実績】

平成26年より、東京のおむすび店からのアメリカ出店の話を契機に輸出を開始。令和5年の生産量は456トンで、米国、フランス、シンガポール、台湾等に輸出。

みやぎ登米農業協同組合

【取組内容】

「コメ新市場開拓等促進事業」も活用して、つきあかり等の**多収性品種の導入**と併せて、**耕畜連携による堆肥の有効活用**を図り**低コスト生産を推進**。

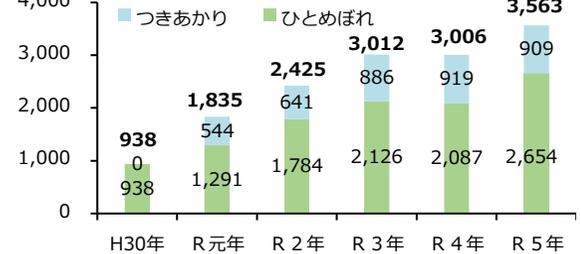
輸出用米の生産者数が増加（H30年235人→R5年532人）。



【生産実績】

R7年度の目標として掲げていた3,000トンをR3年度に達成。今後も継続安定した出荷を目指す。輸出先は、香港を中心に米国、シンガポールなど。

○輸出用米の生産量 (単位：トン)



茨城県産米輸出推進協議会

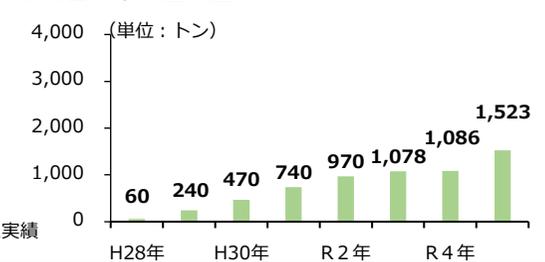
【取組内容】

協議会のオブザーバーである^{いちば}（株）百笑市場では、「コメ新市場開拓等促進事業」も活用して、**多収性品種**（にじのきらめき、ハイブリッドとうごう3号）の**契約栽培を推進**。そのほか、**ドローンによる直播・病害虫防除等の省力・低コスト化の取組を推進**。

協議会の参加者（生産者）数が増加（H28年8人→R5年85人）。



○輸出用米の生産量



※協議会の生産量のうち（株）百笑市場を通じた実績

現地系外食・小売チェーン等への進出

- 輸出額の更なる増加に向けては、オールジャパンで、輸出先国・地域の市場調査、販路開拓等の取組を進めることにより、日系だけでなく現地系スーパー・レストランチェーンなど新たな市場を開拓する必要。
- 香港、シンガポール、アメリカなど各国・地域において、現地系外食・小売チェーン等に進出する事例も出ている。

〈進出事例の一部〉

(2024年7月時点)

コメ	パックご飯	米菓
----	-------	----

日本産米

- ・シンガポールで22店舗展開している台湾料理チェーンに対して、**台湾料理（チャーハン等）に合うコメの提案や炊き方提案**、使用後のきめ細やかな**フォローアップ**を実施。
- ・チャーハンに合うコメを提案したことで、**メニューの品質が向上**。また、多量のコメを消費する同チェーンに対して、試用期間中に欠かさずにコメを供給をし続けられたことも評価され、**日本産米の継続使用が実現**。



パックご飯

- ・アメリカ全土に展開する**現地系量販店と他業態で取引関係があったこと**をきっかけに、エリアを限定したPB商品として**テスト販売**を実施する予定。定番商品化に向けて商談中。
- ・台湾においても、**同米系量販店のECサイトを足掛かりに、実店舗への進出**を計画。



米菓

- ・消費者による日本製菓子の**SNS投稿がバイヤーの目にとまり**、**JETRO経由で紹介**を受けたことで、アメリカのテキサス州に展開する**現地系小売店のPB商品**として**テスト販売**を実施。2023年10月から本格的に現地での販売を開始。
- ・日系小売店では日本風のパッケージにラベルを貼って対応することを求められるが、**英語のパッケージで子ども受けするポップなデザイン**にして、**現地系消費者に訴求**。



●韓国

- ・大手スーパー、ドラッグストア、ディスカウントストア

●アメリカ

- ・大手量販店チェーン(店舗内寿司用)
- ・大手量販店チェーン (PB (※) 用テスト販売)
- ・アッパー向けスーパーチェーン
- ・大手小売チェーン

●香港

- ・大手寿司チェーン(業務用)
- ・おにぎりチェーン(業務用)
- ・高級グルメ系スーパーチェーン

●カナダ

- ・大手量販店チェーン(小売用)

●フィンランド

- ・小売店(店舗内寿司用)

●台湾

- ・大手スーパーチェーン(小売用)
- ・大手ドラッグストアチェーン

●スイス

- ・小売店(店舗内寿司用)

●ベトナム

- ・日本食レストラン(業務用)

●マレーシア

- ・アッパー向けスーパー

●シンガポール

- ・日本食/台湾レストラン(業務用)
- ・大手ネットスーパー(小売用)

●オーストラリア

- ・大手量販店チェーン(小売用)

※“Private Brand”の略称。小売業者が商品を企画して、メーカーが生産した商品を全量買取して自社ブランドとして販売するビジネスモデル。